

# 目指せ！『ダイバーシティ』

男女共同参画委員会から

「男女共同参画委員会では、「人材多様性の促進」と「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進」を目指し、1)実際に各企業・大学・研究所で行われている男女共同参画の取り組みを現場の声と共に紹介する「うちの取組」の掲載、2)女性会員の情報交換の場を提供する「女性技術者ネットワーク」の開催、3)年会での女性著名人の講演、女性研究者の研究成果発表の場である「女性技術者フォーラム」の開催など様々な活動を行っております。これらの活動内容を広く会員の皆様にご覧頂くことでより一層の推進を目指したいとの思いから、化工誌にて活動内容の紹介をさせて頂いております。今月号は「うちの取組 No.19」を掲載させていただきます。バックナンバーはホームページよりご覧頂けます。」

## 「うちの取組」

ーワーク・ライフ・バランスと人材多様性(*diversity*)の促進をめざして

### 学長メッセージ

芝浦工業大学は2014年9月に私立理工系大学で唯一、スーパーグローバル大学創成支援事業に採択されました。いま、世界に通用する大学づくりを教職協働で進めています。

大学のグローバル化に大切な要素は、Diversity and Inclusion (多様性の受容)です。世界の大学では、教員も職員も学生もいろいろな国の出身者が集まり、互いに切磋琢磨し、そして、ともに成長しています。

教育も研究も多様性の中でこそ輝くと言われております。この多様性には、もちろん性別も含まれます。女性が活躍できる場は、男性も力の発揮できる場所なのです。

そして、理工学分野では、女性ならではの発想が、新しい技術開発や、大きな進展につながることも多いのです。日本がいままで築いてきた科学技術立国としての世界的地位を維持するためには、女性研究者の活躍が必須です。イノベーションは多様性の中から生まれると言われております。

芝浦工業大学は、世界に開かれたグローバル理工系大学を目指して、男女共同参画を積極的に推進していきます。

芝浦工業大学学長 村上雅人

## 1. 芝浦工業大学が目指すもの

世界における理工学系学部へ進学する女性比率と比較すると我が国の理工学系部会の女子学生は未だ少なく、特に工学系分野の女子学生比率、女性研究者比率は極めて低い状況です。芝浦工業大学はその名のとおり「理工学系」の大学であり、学生、教員の女性比率は日本の理工学系部会の女性比率10%程度とほぼ同じ状況にあります。このような状況において、工学系人材を輩出する本学では、産業界が求める女性技術者の育成、特に指導的立場となりうる人材の育成は大きな課題といえます。本学では、「男女共同参画」を全学的な取組と捉え、男女共同参画推進室を立ち上げ、女性教員の増員には具体的な目標に掲げ、さらに女子学生の増員、女性研究者の卵の育成を推進しつつ、ワーク・ラ

イフ・バランスの実現と人材多様性の促進を目指していません。

## 2. 女性教員増員の取組

芝浦工業大学では、女性研究者の積極的な採用・登用を目指し、男女共同参画推進室において、具体的な数値目標(2015年度末で12%)をたて、人材の多様性に取り組んでおります。しかしながら、上述のように工学部へ進学する女子学生が少ないことから、工学系の女性研究者は非常に少なく、求人公募要項内に男女共同参画推進への取組、女性の応募を歓迎する旨の明記のみでは目標達成は難しく、学内の理解、学外への積極的働きかけが必須となります。工学の専門科目の教員応募者に女性応募者が増えるよう、関連科目がある大学、学協会、公的研究機関などに積極的に勧

誘を行うと同時に、学内の理解、意識啓発を目的に女性教員増員のためのワークショップを開催しました。この結果、男女共同参画推進室が立ち上がる前は8.3%であった女性教員比率が2014年10月時点で10%以上となっています。

#### ・「女性教員増員のためのよろずお悩み」ワークショップ

学長、副学長に加え、女性教員のいない学科の教員を招き、女性教員のいない学科の解消・女性教員の増員について課題認識を深め、その方策について忌憚のない意見交換を行いました。「女性の採用促進」と「女性の育成」を中心テーマに、活発な議論が交わされました。採用促進の方策として、新分野開拓や挑戦的課題に併せて女性の積極的採用を兼ねる特任ポスト活用、募集対象分野の拡大および柔軟化、常時の女性人材情報収集と働きかけ、海外在住者や外国人を含めた人材把握と働きかけ、優秀な女性人材を惹きつける本学の魅力の明確化と積極的発信等があげられました。育成については、女子学生の高いモチベーション形成の取組み、大学院特に後期課程への進学支援、女性教員採用後の継続的な育成、研究者としての力量形成期の業務分担上の配慮などが挙げられました。討論を通じて、女性教員の増員という課題と具体的対応策に関する参加者の認識が明確になり、女性教員採用の重要性について理解が深まりました。

### 3. 女性教員・女性研究者が活躍する大学へ

専門分野の細分化が進んだ現在、本学においても女性教員の活躍は、学内の他学科の女子学生、これから工学を目指す女子学生にもなかなか伝わりません。本学では、工学そのものの魅力を女性教員の研究を通して伝えようと、女性教員研究紹介冊子「未来は私たちの手でつくる」を作成しました (<http://plus.shibaura-it.ac.jp/women-faculty/>)。従来の専門分野に囚われず、医療と機械工学、医療と材料工学の接点から画期的な研究成果などが紹介されています。

また、女性教員の専門分野を互いに紹介することで、女性教員同士の相互理解、交流を深めると共に、異なる専門を持つ研究者同士で新たな研究の可能性を探るべく、「女性教員の集い」を月に一回程度開催しています。その活動を通じ、女性教員が必要とする支援について様々な意見を男女共同参画推進室では頂戴しています。子育て、介護などのライフイベントにおける支援として、各女性教員のライフスタイルに併せた研究支援員の配置、安心して育児休業に入るための制度化などが進められており、今後も女性教員が活躍できる環境をさらに一層充実していく予定です。

#### ・電子工作Project Based Learning [Fab Girl Project]

女性教員の集いの中から生まれた活動の一例として、女



図1 Fab Girl Project実施当日 物作り風景

子学生のリーダーシップ教育と電子工作による物作り教育を融合した新たな教育研究の試み、「Fab Girl Project」について紹介します。本学の特徴である「もの作り」をとおして、女子学生のリーダーシップを養うと同時に、日頃は集う機会の少ない女子学生が学科横断的に参加することにより全学的なネットワークを作成する場を提供することを目的とした、女性教員が支援する女子学生の女子学生による女子学生のためのPBL企画です。もの作りの対象は、いまや日本が発信元となり世界をリードする「かわいい」をテーマに、様々な最先端技術(各種センサ等)を用いて身近な環境における人の生活環境をよりよくする、従来にない「動くもの」としました。最先端のデバイスを初心者にも利用できる環境作りと女子学生リーダーを育成することによるPBL効果を研究テーマとし、複数の女性教員の指導の下、「Fab Girl Project」では、電子工作初心者であっても、企画・設計から実際に動くものの作成までを完遂することを目標としました。学生リーダーは情報工学の修士2年の学生を中心に、情報工学、通信工学科等の修士、3、4年学部生から有志を募り、5名の学生リーダーが参加、また、一般の学生は学生リーダーのアナウンスにより11名の参加がありました。本プロジェクトは、学生を主体とした事前準備活動を5月～7月に行い、7月に一般参加学生を募集、8月22日に学生リーダーに対するリーダーシップ教育、8月25、26、27日に実際にもの作り(図1)を行う3日間のPBLを実施しました。少人数グループによるもの作りは、学生リーダーの指導の下、参加したすべての学生が自分の役割を持ち、参加した一般学生が誰でも一度はデバイスを動かすことができ、大変好評でした。本projectの結果は、修士2年の学生リーダーにより学会でも紹介され、単にPBLの実施に止まらず、研究成果としても高い評価を受け、卒業時には優秀な修士修了生に与えられる有元賞を受賞するに至りました。

#### 4. 男女共同参画推進室の紹介

最後になりましたが、簡単に本学の男女共同参画推進室について紹介します。学長及び理事長(学長室, 理事会)の下, 男女共同参画推進室が設置され, 基本計画, 各部局の数値目標の入った中長期計画を策定しています。また, 各部局から選出された教職員をメンバーとする男女共同参画推進委員会を置き, 全学的に男女共同参画に関する取組を推進しています。

現在, 男女共同参画推進室は, 男女共同参画推進室長1名に専任のコーディネータ教員2名を加えた男女共同参画推進室員として, 教員14名, 職員5名からなり, 図2に示すように, 本学の男女共同参画推進における課題ごとに対応すべく, 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業(一般型)」の展開を主とした女性研究者育成・支援WGを中心に, 女性教員採用推進WG, 学生・卒業生WG, 入試・広報WG, 学外連携WG, ワークライフバランスWG, 総合支援WGと全7つのWGに, 昨年秋から採択された文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業(連携型)」を展開する女性研究者活動・連携WGから構成されています。本学における男女共同参画の課題にあわせたWGを構成することで, 個々の課題に深く取り組める体制を作り上げる一方, 女性研究社育成・支援WGの統合的な支援により, 各WGが必要に応じて連携することにより, より全学的な幅広い取組みも可能となっています。

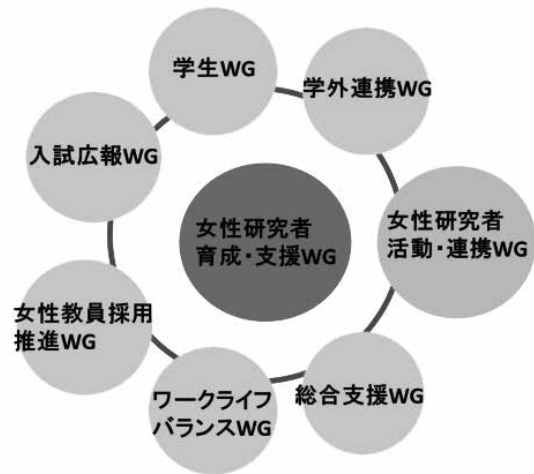


図2 芝浦工業大学における男女共同参画推進室の構成

#### 5. おわりに

2013年10月の男女共同参画推進室設立から1年半の芝浦工業大学の男女共同参画推進の取組みを女性教員増員, 女子教員の研究の見える化と女子学生の育成を中心に紹介しました。工学系大学ならではの女性が少ないという特色を逆手に活かした少数派による緊密なネットワークや「もの作り」を根底にした企画などの活動を行っています。今後も, 学内の要望を様々な角度から受け止め, 数値目標を超える女性教員の増員, 女子学生の増員・育成の推進と引き続き強力に男女共同参画を推進していく予定です。

(芝浦工業大学 男女共同参画推進室 中野美由紀)